



弥生時代の土器棺墓

壺や甕を棺として用いた、弥生時代のお墓が見つかりました。子供を埋葬したのかもしれませんが。この土器は、遺物展示コーナーでご覧いただけます。

奈良県立橿原考古学研究所では、橿原市四条町の藤原京右京五条八坊・慈明寺遺跡で発掘調査を実施しました。発掘調査の場所は、もと奈良県農業研究開発センターがあった跡地です。この敷地を、3箇年の計画で調査をしており、今年がその最後となります。発掘調査の結果、弥生時代の水田や、藤原京の宅地などがみつかりました。

(1) 弥生時代の水田

弥生時代前期（紀元前 5 ～ 4 世紀頃）の水田が見つかりました（前頁の②）。周囲に比べてほんの少し高くなった、水が得やすくて、それでいて湿地にもならないような場所を巧みに利用して、水田を営んでいます。当地では、これまで弥生時代前期の溝（集落を何重もの溝で囲う、「環濠」と考えられます）や、石器の材料となる石材を加工した場所などがみつかっていました。それに加えて、今回は稲作のための水田も判明したというわけです。

さらに、今年の調査では、土器棺墓（上の写真）も見つかりました。すぐ近くで二つの土器棺墓が並んでいたことから、その辺り一帯が墓地であったのだろうと考えられます。こうして、東西に 500m ほどの範囲で、集落と水田、石器の加工場や墓地という具合に、弥生人の暮らしぶりが窺えるさまざまな痕跡が残っていることが明らかとなりました。

(2) 藤原京の宅地

調査地は藤原京の右京五条八坊に該当します（表紙参照）。右京五条八坊の敷地を通る東西の道路を、五条条間路といいます。発掘調査では、五条条間路の南側に掘られた側溝が見つかりました（前頁の⑤）。残念ながら、北側の側溝は、残りが悪く、はっきりとはわかりませんでした。こうした道路を基準として、京内の宅地が区画されていたわけです。

では、その宅地には、どのような建物が建っていたのでしょうか。この辺りでは、必ずしも建物が多くは見つかっていません。しかし、今年の調査では、柱の据え付け穴が 1.5m もあるような大きな柱穴が並ぶ建物跡が見つかりました（表紙参照）。実に重厚な造りであったことと想像されます。こうした建物が、互いに距離をおきつつ建っていたような景観が目に見えます。

(3) その後の慈明寺遺跡

平城京へ都がうつると、やがて藤原京は廃れてしまいます。しかし、平安時代には、再びこの地に集落が営まれました。今回は、建物が 3 棟と、井戸が 1 基、それぞれ見つかりました。この集落も、やがては耕作地に替わり、現在まで続く田園風景が生まれることになります。こうしたところに、人々が連綿と紡いできた歴史の一コマが現れています。

藤原京右京五条八坊・慈明寺遺跡現地説明会

2021 年 11 月 14 日 奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町 1 番地

Tel. 0744-24-1101 <http://www.kashikoken.jp>

（過去の現地説明会資料は、こちらからご覧いただけます）→



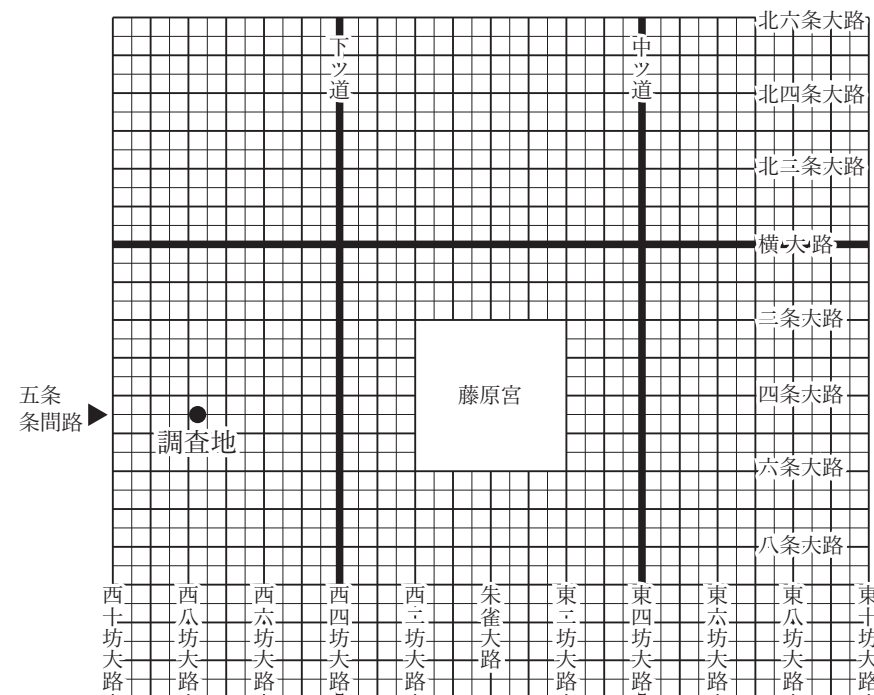
東上空から見た調査地

これまでの調査で、弥生時代の環濠（集落）や、石器を加工する場などがみつかっていました。今回は、それらに加えて、同じく弥生時代の水田や、墓などが見つかりました。この、東西に 500m ほどの範囲を舞台に、弥生人たちが生き抜いた痕跡が、しっかりと残っています。



古代の建物跡

本日はご案内できませんが、今回の調査では、大きな柱穴をもつ掘立柱建物の跡が見つかりました。実に重厚な造りの建物であったろうと想像されます。



藤原京は、694 年から 710 年までの日本の都です。都の中は、左の図のように直線の道路で東西・南北に区画されていました。中心付近に藤原宮があり、そこに天皇の住まいなどがありました。

調査地は、藤原京右京五条八坊です。これは、藤原京内の位置の表し方で、藤原宮から南をみた場合の右手が右京、右京の四条大路～五条大路の間で、かつ西七坊大路～西八坊大路の間の区画という意味です。



⑤五条条間路（西からみたところ）

今回の調査では、五条条間路の南側溝だけがみつかりました。北側溝は、南側溝よりも浅かったのか、残っていませんでした。こうした道路を基準にして、藤原京の宅地が区画されていました。



②弥生時代の水田（北東からみたところ）

水田の畦畔が見つかりました。畦畔で区画された中で、稲を育てていたわけですが、現在の水田よりもずいぶん小さな気がします。これは、緩やかな斜面を巧みに利用して水をはるための工夫でしょう。



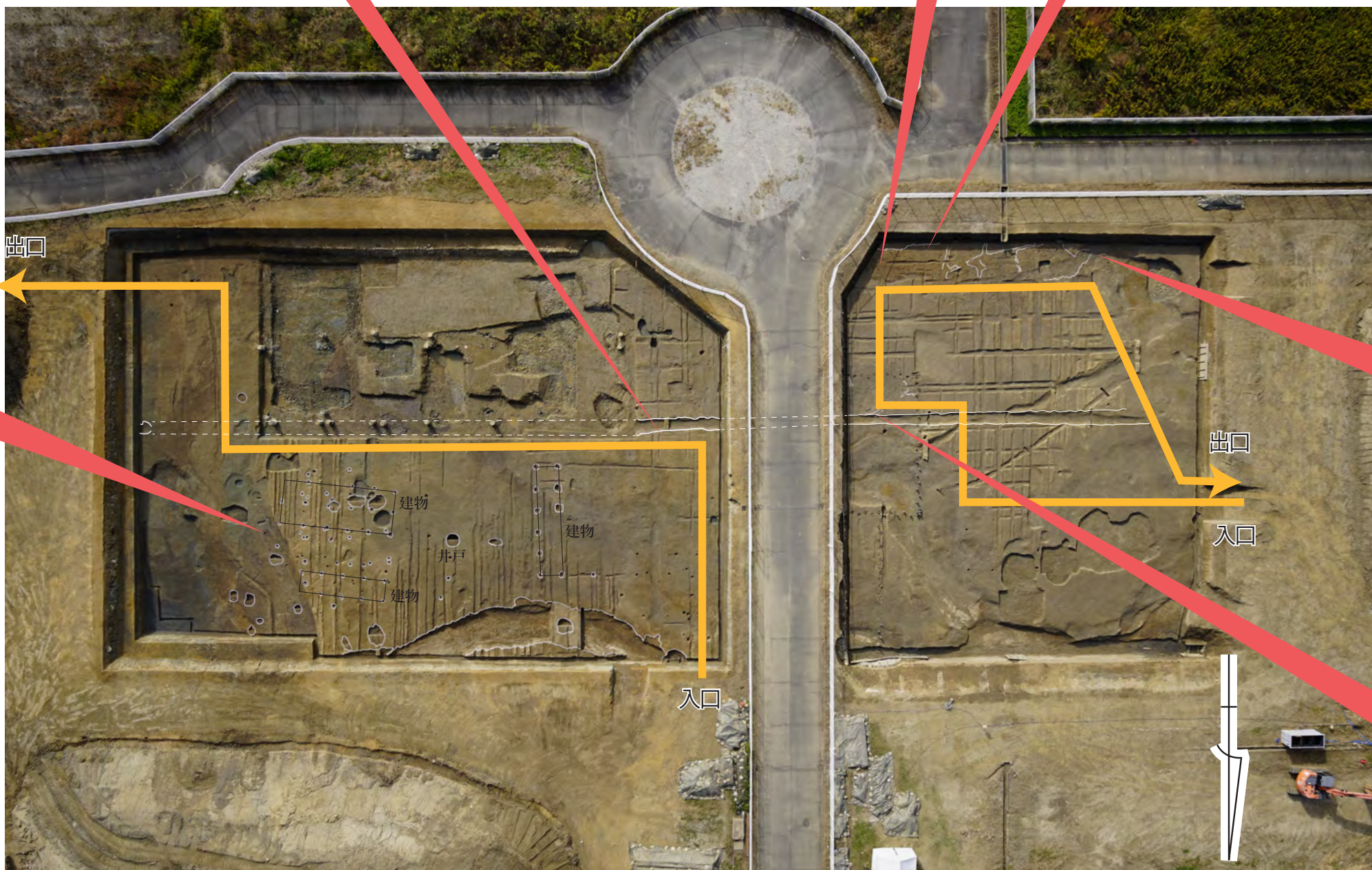
③水田に残る足跡

水田には、小さな穴が点々と残っています。よくみると、一定の形をしていることがおわかりになるでしょう。弥生人の足跡が、そのまま残っているものと思われます。



⑥平安時代の集落（東からみたところ）

東側に建物が2棟、中央に井戸が1基、西側に建物が1棟、それぞれ見つかっています。



④水田の水口（西からみたところ）

畦の一部を切って、水口を設けています。稲作に必要な水を出入りさせたのでしょう。



①水田の上から出土した弥生土器

水田が営まれた時期を考える手がかりとなる土器です。土器の特徴から、弥生時代前期（紀元前5～4世紀頃）のものと考えられます。